

●第76回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 秋田県代表決定戦

【 男子決勝 戦評 】

雄物川	2	25-17	0	増田
		25-12		

6月の高校総体決勝と同じ組み合わせとなった男子代表決定戦。雄物川は、4番高橋一太の打点の高いスパイクを中心に試合を有利に進める。増田は、4番長雄のバックアタックが決まると、粘り強いレシーブでボールをつなぎ2番鈴木を中心としたコンビバレーを展開する。中盤以降、雄物川は、3番最上の連続サービスエース、15番佐藤のサービスエースで突き放し25-17でこのセットを取った。

第2セット 雄物川は11番1年生福山のサービスエースを起点に、粘りのレシーブ、高さのアタック、ブロックが次々として、12連続得点で一気に勝負が決まった。春高切符への執念を見せ、雄物川が29連覇を達成した。

【 女子決勝 戦評 】

秋田令和	2	25-23	0	由利
		30-28		

前年度代表校の秋田令和とノーシードからここまで勝ち抜いてきた由利の戦い。前日のフルセット勝ちで勢いに乗る由利は、7番今のサービスエースをきっかけに粘り強いレシーブと4番齋藤のスパイクなどで3連続得点で一時リードをするものの、秋田令和も1番石川のスパイクが決まりだし、一進一退の展開で中盤まで試合は進む。混戦の中、令和は5番佐藤（優）、3番大山のスパイクで19-15とリードすると、9番土田の巧打、1番金子がブロックで勢いに乗り、先にセットポイントを迎える。しかし粘る由利は地元大応援団の声援を受け5連続ポイントで追いつがるも、最後は25-23で秋田令和がこのセットをとった。

第1セット終盤のまま勢いに乗る由利は、2番鈴木（環）のツーアタック、7番今のスパイク、サービスエースによる連続ポイントで8-5とリードするが、秋田令和も5番佐藤の連続サービスエースで9-9で追いつく。両チーム応援団の大声援がチームを後押しし、両チームともボールを落とさない好レシーブの応酬となる。由利は4番齊藤、3番佐藤（愛）のミドルからの力強いスパイクが相手コートに決まれば、秋田令和も5番佐藤（優）、1番石川のスパイクで対抗する。正しく大熱戦の第2セットを制したのは秋田令和だった。1番石川が17本、3番大山が14本のスパイクを決め、2年連続3回目の代表を勝ち取った。